

弥彦村社教だより

平成30年10月22日 NO. 11
弥彦村社会教育委員の会

《第4回地域づくり交流会報告》

9月22日（土）に上記の会を実施しました。3連休の初日ということや稲刈りシーズンということもあって、参加者の確保が困難でした。それでも、30名を超える方から参加していただきました。

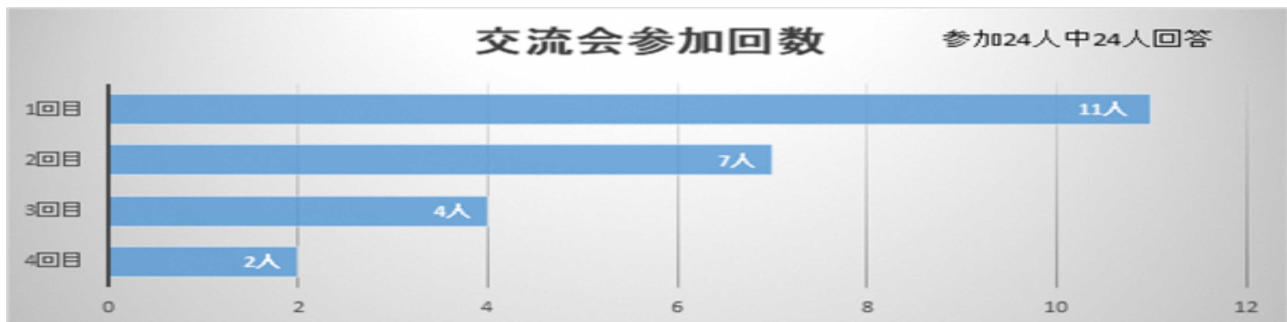
この日は、10月17日（水）に糸魚川市で行われた県社会教育研究大会で発表した「弥彦村社会教育委員の取組」について、プレ発表を行いました。参加者に社会教育委員の取組を知ってもらい、発表内容について意見をいただくことを目的に行いました。それに続き、「弥彦の魅力を高めるために」についてグループ協議を行いました。

社会教育委員の会では、出された意見について村に提言するとともに、実現できることを実践していくために、毎年、交流会を実施しています。次年度も実施することになっていますが、内容や実施期日について、今後検討して参ります。住民の皆様も、ぜひ、一度参加してみたいはいかがでしょうか。

以下、アンケート結果と協議した内容についてのまとめをお示しします。

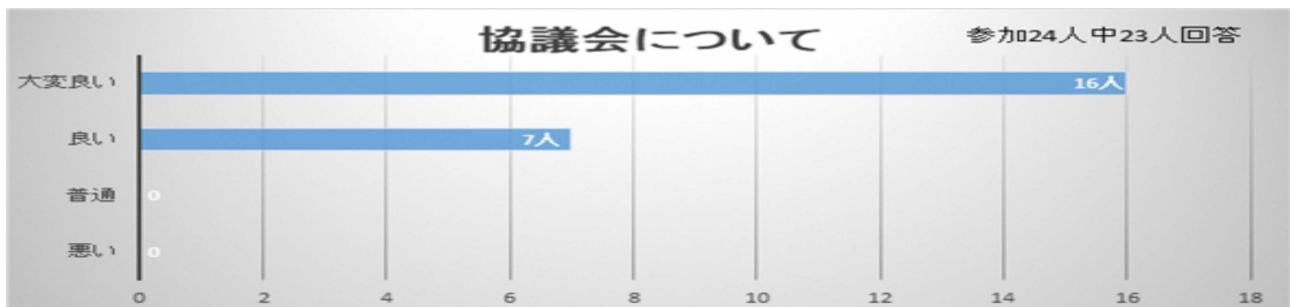
（文責 堀）

第4回交流会アンケート （まとめ 本間）



【社会教育委員の発表を聞いた感想】

- ・活動内容がわかりやすく良かった7
- ・写真、PR 動画コンクールの動画、視覚にうったえるものが入るといいと思う5
- ・弥彦村の PR が出来ていた2
- ・弥彦村がもっと活気あふれるように今後の活動に期待したいと思った2
- ・社会教育委員の存在を初めて知り、村のために活動してきたことを知れた2
- ・画面に文字が多くて見づらい1
- ・ユーモアを入れた方がいい1
- ・どこかひとつ強く訴える部分があるといいと思った1



【協議会に参加した感想】

- ・色々な世代の人と意見交換でき有意義だった13
- ・弥彦のいいところ、知らないこと、改善点を知ることができ良かった2
- ・出された意見が反映されるのか？実現するといいと思う2
- ・中高生が弥彦をどう思っているのか、作文でもいいので発表してもらってもいい1
- ・テーマが広く様々な視点から弥彦を考えることが出来た1
- ・新しいことに腰が重いとされているところを変えていきたいと思った1
- ・この会がどう活動に繋がっていくのか村民に知らせる機会があるといいと思う1
- ・グループでまとめたものを第三者に見てもらい意見を書いてもらうといい1
- ・もっと若い人の参加が増えるといい1
- ・何度か参加すると新しい考え、発想が思い浮かばなくなる1
- ・積極的に発言する方を見て、自分もより考えを深め、何かを発信したいと思った1

【今後の交流会への意見】

- ・10代、小中高生の参加があった方がいいと思う4
- ・今後も交流会を続けた方がいいと思う2
- ・交流会開催の周知方法を考えた方がいい2
- ・参加者が増えるように開催日を考えた方がよい1
- ・色々な人が気軽に参加できるようなお茶会のような感じでやってもいいと思う1
- ・男女別でやってもいいと思う1
- ・今後も誘ってほしい1
- ・初めての参加者としては意見が出しづらかった1

第4回交流会協議まとめ (まとめ 堀)

< 1班 >

- 理想の村にするために
 - ① 若者の話を聞く機会を設ける
 - ② 地域の和、繋がりを最大限に生かし、行事に人を呼び込む
 - ③ 地元を住民にもっと知ってもらう

< 2班 >

- 現状と改善点
 - ① 地域の繋がり
 - 「あいさつマーク運動」の実施であいさつのある村づくり
 - ② 子供の団結力が強い
 - 10代の声を聞く場を設ける
 - ③ 自然環境の良さ、暮らしやすさ
 - 弥彦の良さを見つける会を多くもつ

< 3班 >

- 現状と改善点
 - ① 伝統・文化・行事が素晴らしい
 - 本村だけの祭りにならぬよう講中を充実させる
 - ② 足湯・おもてなし広場・やひこむすめ50周年で賑わっている
 - 村の特産品が簡単に買えるようにする。
子供が楽しめるようなものも用意する
 - ③ 人の繋がり、元気な子供・高齢者
 - 地域格差をなくすような取組を実施する

< 4班 >

- 改善点
 - ① 文化的な活動
 - ・ 空き家を活用した習い事
 - ・ 文化会館の再建（改築）
 - ・ 本に興味をもてる図書館整理
 - ・ 観光客のための酒蔵見学
 - ② 施設の充実
 - ・ レンタサイクルの観光利用
 - ・ プールがほしい
 - ・ 弥彦線の利便性の拡大
 - ・ おもてなし広場を一步進める
 - ③ 未来への希望・展望
 - ・ 観光のためのインバウンドの呼びかけ
 - ・ 新しいことに挑戦する場、新しいことを受け入れる雰囲気作り

< 5班 >

- 村を出る必要がない村づくり → 色々な多世代の交流会をもとう！
 - ① 地域のまとまり
 - ・ 地域行事に積極的に参加する
 - ・ 神社を中心に多世代の交流がある



<グループ協議の様子>

- ・ 地域の人同士の繋がりが深い
- ② 豊かな自然観光
 - ・ 日本中に知られた観光地
 - ・ 長い歴史をもつ
- ③ 住みやすさ
 - ・ 多世代で生活している人が多い
 - ・ 人口があまり減らない
- ・ 細かいところまで行き届く
- ・ 自然を楽しむ生活スタイル
- ・ 都会のベッドタウンとしてPR
- ・ 子供のための様々な取組

< 6 班 >

- どんな理想の村にしたいか
 - ・ 子育てしやすく、高齢者が安心して暮らせる
 - ・ 一人一人が生きがいと役割をもって、生き生きと活躍できる
 - ・ 誇りがもてる村（人を育て、互いに助け合う）
 - ・ お金と頭を使って役割分担の明確化

《地域からの情報・・・氏子青年会》

三方 剛 彌彦神社氏子青年会会長



< 保育園での燈籠押し実演 >

彌彦神社氏子青年会は、神道精神に基づき、相互に精神鍛錬を為し、人格識見の向上を図り、以て地域社会の発展と美しく明るい豊かな郷土の建設に努めることを目的として、彌彦神社を崇敬する40才以下の者で組織されている会です。41才以上の者は賛助会員として活動しています。

地域社会との交流は、燈籠まつりの約2か月前から小・中学校へお祭りの指導に伺っています。小学校は、初め

てお祭りに参加する4年生に燈籠の担ぎ方、燈籠に飾り付けるゆりの花作成、PTAの方と一緒に桜の花作成を指導しています。中学校は、燈籠の担ぎ方、あやめ、桜の花作成、木遣り唄、樽太鼓、横笛の指導をしています。

その他、村内3つの保育園に祭りの前に燈籠を持って訪問し、私たちの担ぎを観てもらっています。年長さんには実際に燈籠を担いでもらい、押合いを体験してもらっています。子ども達への指導を通して、弥彦の歴史や伝統文化を次世代に継承していく事を目的として奉仕活動しています。

- | | | | |
|-----|---------------|------|-------------|
| 委員長 | 堀 隆行 (弥彦中学校長) | 副委員長 | 平井 茂人 (村山) |
| 委員 | 本多 隆峰 (麓一区) | 委員 | 柏原 路子 (麓二区) |
| 委員 | 丸山 浩 (弥彦) | 委員 | 本間 美幸 (弥彦) |
| 委員 | 那須 裕美子 (川崎) | 事務局 | 本多 正 (教育課) |

※ ご意見のある方は、近くの委員、もしくは中学校、教育委員会事務局にお電話ください。(中学校94-2101 事務局94-1021)